

# ひめゆり 通信

第152号

2017年10月20日号

<http://hozanji-wel.org/>

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

## 主な目次

● 卷頭言	1
● いこま乳児院五十周年を迎えて	2
● 衛生研修	3
● 高齢者施設より	4
● 児童施設より	7
● 愛染寮 海への里帰り	12
● 採用取組と現状	14
● 法人研究発表会案内	16

## 「そうだつたのか」

宝山寺福祉事業団理事長 辻村泰範

生活に様々な問題を抱えている人や支援を必要としている人に対して衣食住の具体的な物資を提供することであったり、介護のお世話をさせていただくことであったり、療育の支援を提供すること、あるいはさまざまな相談に応じて適切なアドバイスを提供することなど、いわゆる福祉サービスを提供することが私たちの仕事です。——布施——

その福祉サービスを提供するにあたって心すべきは、優しい言葉や心遣いを持つて接することです。サービスの提供に際しては懇切丁寧を旨とすることが運営基準においても求められています。

### 愛語

福祉サービスは、当然そのサービスを利用する人、対象者本位でなければなりません。その人のニーズに応じた適切で適量のサービスを提供することは、大変重要なことです。自立支援という言葉には、利用者本位であることの重要な意味が含まれています。私たちは、時には利用者に代わって望ましいサービスのあり方や制度のあり方などについても代弁す

これらは、福祉サービスを提供するにあたっての基本原理です。実は、これらの「布施」「愛語」「利行」「同事」の四原則は仏教で菩薩が人々に接する際の四つの基本行為（四摄事、四摄法）を表しているのです。

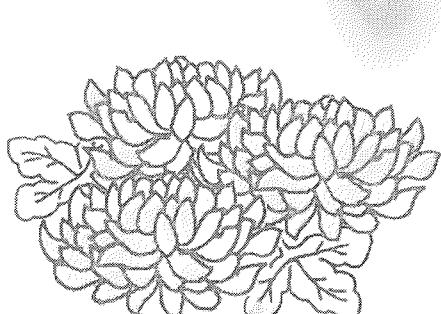
「そうなんですよ！」二千年以上も昔から、迷い苦しむ衆生（我々）を救つてくれる菩薩様たちは、今と同じ福祉サー

ること（アドボカシー）が求められます。児童福祉に携わる人々が「子どもの最善の利益を」と主張するのもこのことです。

### 利行

支援を必要とする人が本当に必要としていることとは何か。「お前に何がわかる」昔からよく言われた言葉です。なかなかその人の立場や気持ちをわかることは難しいことです。しかし、わかろうとしないことには、適切なサービスの提供など及びもつきません。何とかその人に寄り添い、伴走することから始めざるをえないのでしょうか。厳しい環境に自ら飛び込んでわかりあいたいと考える人たちもいるに違いありません。——同事——

ビスと共に理念をお持ちだつたのです。さらに言えば、支援を必要としている人々（迷い悩み苦しむ衆生）を援けるために、専門的な知識・技能を追求している人（最高の知恵を求めて修行している人）をボサツと呼ぶのです。見渡すと私たちの周りにも多くのボサツがおられるよう思います。去る9月9日、京都の種智院大学で日本佛教福祉学会の大会があり、基調講演を頼まれました。そのあと、あらためて感じるのは仏教用語をもつと身近に置き換え、現代的に理解することの必要性と重要性です。ともすれば、難解な仏教用語をさらに難解な言葉を使って説明することへの誘惑に駆られてしまいがちですが、これからはもう少し心しなければと思っています。





いこま乳児院は、昭和四十二年十月一日に児童福祉法による乳児院として定員十五名で認可されてから、五十年目の節目を迎えました。昨年度は児童養護施設愛染寮の七十周年でした。が、創設者辻村泰圓師は当時、愛染寮へ措置されてくる子どもが次第に低年齢化し、乳幼児の要保護が急増する状況を鑑み、あちこちを奔走されてやつと乳児院が誕生しました。乳幼児に対する泰圓師の思いは熱く、すでに極楽坊保育園、いこま保育園は開設されていましたが、四年後にはいこま乳児保育園が開設されることに繋がっていきました。

いこま乳児院は、昭和四十二年十月一日に児童福祉法による乳児院として定員十五名で認可されてから、五十年目の節目を迎えてから、五十年が、創設者辻村泰圓師は当時、愛染寮へ措置されてくる子どもが次第に低年齢化し、乳幼児の要保護が急増する状況を鑑み、あちこちを奔走されてやつと乳児院が誕生しました。乳幼児に対する泰圓師の思いは熱く、すでに極楽坊保育園、いこま保育園は開設されていましたが、四年後にはいこま乳児保育園が開設されることに繋がっていきました。



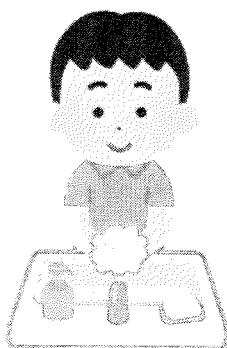
初代院長の泰圓師が昭和五十三年五月に急逝された後、創設時から事務長として支えてこられた柳原朝雄氏が二代目院長となられましたが、一年余りで死去され五十六年一月に三代目院長辻村峯子氏が就任されるまでの間は、愛染寮長の宮本隆雄氏が兼務されていました。その後二十二年間八十歳まで峯子院長が、優しくしっかりと乳児院の子どもたちを守つてこられました。昭和六十年には、念願の職員宿舎三階建てが完成。

平成十六年四代目院長として、元児童相談所長であった西田修二氏が児童発達支援センターあすなろと兼務で就任されました。丁度児童福祉法の改正で就学前まで入所が可能となり、又、小規模グループケアを職員宿舎の一階を利用して開設しました。障害を持つお子さんの受け入れも増えてきましたが、あすなろとの連携でそのノウハウを上手く生かすことが出来ました。平成二十年に五代目の院長として私が就任いたしました。平成二十三年に



「すきのこ」が完成してその三階に引越しました。現在は、定員二十五名（暫定十八名）。院長、事務員、看護師三名、保育士十六名、管理栄養士、調理師等四名、嘱託で臨床心理士、小児科医の総勢二十八名の専門職で子どもたちを養育しています。子どもたちへの思いは今も昔も変らず、事情により家庭で育てる事が出来ない乳幼児を家庭で代わって、職員が二十四時間交代勤務で、健やかな時も病める時もいつも子どもたち一人ひとりに寄り添つて見守り育んでいます。

この記念の年に何かいつもと違うことをやろうという職員の意気込みもあり、皆揃つて一つ屋根の下でお泊りしようという計画が持ち上がりました。八月二十六日、法人内施設の仔鹿園を借りて子どもたちは広い部屋の中を走り回り、ブールサイドで西瓜割に興じ、勿論その後ブールでは大はしゃぎでした。夜はなかなか寝付けないかと思つたら、朝までぐつすりおやすみでした。その楽しそうな子どもたちの様子に、大人達は夏の疲れを忘れるほどでした。



たしていかなければと覚悟を新たにしています。どうぞ、皆様これからも乳児院に温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。  
無事に記念事業としてお泊り保育を完遂出来ましたことをご報告いたします。

いこま乳児院院長 辻村 万里子

もし、当日までに感染症等が出たらこの計画は無しにするという条件付きで準備を進めていました。全員でお泊りするのですから、準備だって並大抵ではありません。十六名の子どもたちとまさに民族大移動。何から何まで車に詰め込んで、五十年目にして初めて院内が空っぽになりました。バンザーリです。

そして夕刻から、仔鹿園のプラザに、県健康福祉部こども・女性局福西局長をはじめ、奈良市、生駒市、県内の児童福祉連盟のお仲間達、法人役員、各施設長等総勢八十数名お集まり頂き、狭いながらも和気藹々と五十年の祝杯を挙げ、楽しい集いの場となりました。何よりも関係機関との連携は欠かせないと改めて感じました。是非ともお招きしたい方も沢山いらっしゃいましたが、会場の都合もあり、ご連絡できなかつたことは、この紙面を借りてお詫び申し上げます。

乳児院の在り方も今後変っていくことが予想されます。しかし、私達は子どもたちの安心安全を守る最後の砦として、必要とされる限りその役目を果



## 平成 29 年度法人衛生管理研修会を終えて

梅寿荘 栄養士 薮田 好美

去る6月2日、梅寿荘研修室にて、法人関係職員44名が参加し、「食品表示と衛生管理について」というテーマで、奈良県食品衛生協会の吉田豊次先生に講習をして頂きました。大量調理施設衛生管理マニュアルの改定と乾物や加工品の安全性、パッケージ表示の見方を勉強する事を目的に、近年起った食中毒事件や、食品表示の背景、食品の衛生管理について、詳しく学ぶ機会となりました。

今年2月、東京都の小学校給食で、きざみのりを原因とする大規模食中毒事件を受け、県から乾物の保存は必要ないが、商品名・製造元・製造番号の記載をするように指示が出されました。記録していくにあたり、製品表示について、詳しく知らない事や、製品によって表示が異なる事にも気づかされました。

検食の保存や記録をする事で被害そのものを食い止める事にはつながりませんが、仮にこのような事件が発生した場合に、原因を特定する為の情報となり、被害拡大を抑制し、関係機関や近隣、全国の調理現場に対し、情報共有を迅速に行う為のものであると学びました。

私達がニュースなどで見聞きした事件から得た教訓と今回の研修で学んだ事を日々の仕事に活用し、単に指示された事をやるだけではなく、業務の背景にある意義を考えながら行動し、今後起こりうるリスクへの対応ができるように努めます。

## 梅寿荘居宅介護支援センター &lt;&lt;

## 抱え込まない環境作り

介護支援専門員

村上有紀子

今年度は人員体制の変更がありました。長年勤務され経験豊かな介護支援専門員が退職や異動になり、新たに介護支援専門員が1名加わりました。梅寿荘居宅介護支援センターは、元町にある桃李館と西旭ヶ丘にある総合支援センターあずさとに分かれて仕事をしていますが、私自身も元町にある事務所に移動になりました。ケアマネジャーは、利用者の在宅生活を支える為、サービス事業所や医療機関、ケースによっては保険者や地域包括支援センターと連携し、専門職の意見を聞きながらチームケアで支援しています。日頃より週に一度のケアマネ会議を通してそれぞれのケースについて相談したり、ケアマネ自身も抱え込まない環境作りを行っています。

高齢者施設より  
上半期報告

## 特養・養護 梅寿荘 &lt;&lt;

## デイセンター憩の家 &lt;&lt;

## 福祉業界人材不足の解消に向けて!!

主任生活相談員

今井 康順

福祉業界の大きな問題として、人材不足が叫ばれています。その中でも学生をはじめとした若者がなかなか福祉業界を選択しない現状があります。実習生やボランティアの受け入れ、SNSでの発信等も積極的に行っているものの効果は見られておりません。その問題を解決すべく、業界の「見える化」への取り組みが県を中心として行われています。その内容とは、人材育成に積極的に取り組む福祉事業所を奈良県が認証し、学生等の求人希望者に公表する「認証制度」ができました。当施設も早速登録を済ませました。

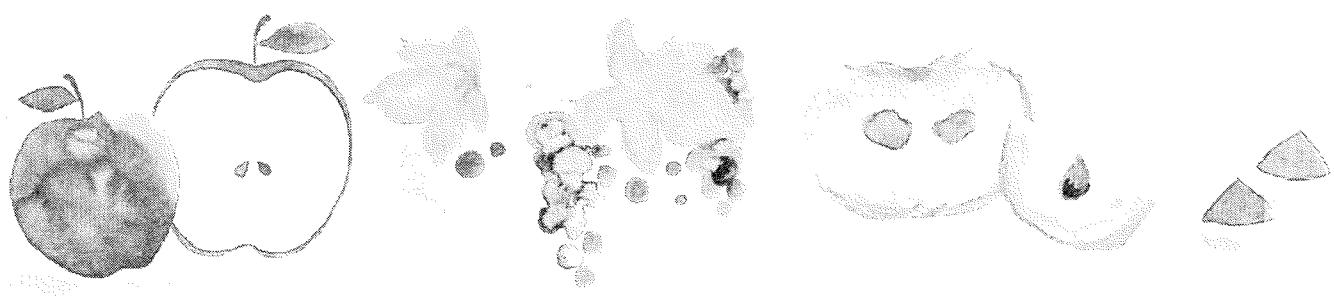
やりがいのある福祉の仕事を見える化し、就職したいと思ってもらえるような職場を目指し、さまざま取り組みにチャレンジしていきます。

認知症介護とは人の気持ちを知る事から…

主任生活相談員

友國 和之

認知症対応型のデイセンター憩の家で務めるようになってから5年になりますが、年数を重ねているうちにようやく8、9月のご利用が多くなることに気が付きました。一般的にも暑い時期には出来るだけ欠かさずに水分を取る事を進めますが、認知症症状を持たれている方にとっては上手く喉の渴きを表現できず、周辺症状として問題行動と言われるような行動をとってしまいます。問題行動として出現する前に、表情や、行動を見て「今この人が何を求めているのか・何を考えているのか」失敗を重ねてでもその人の世界を想像する事が大切と考えます。人を思いやる気持ちは認知症症状の有無にかかわらず必要なのではないかと憩の家で皆様と過ごしているとそう思います。





## デイセンター寿楽

### 工夫

リーダー生活相談員  
前山 照司

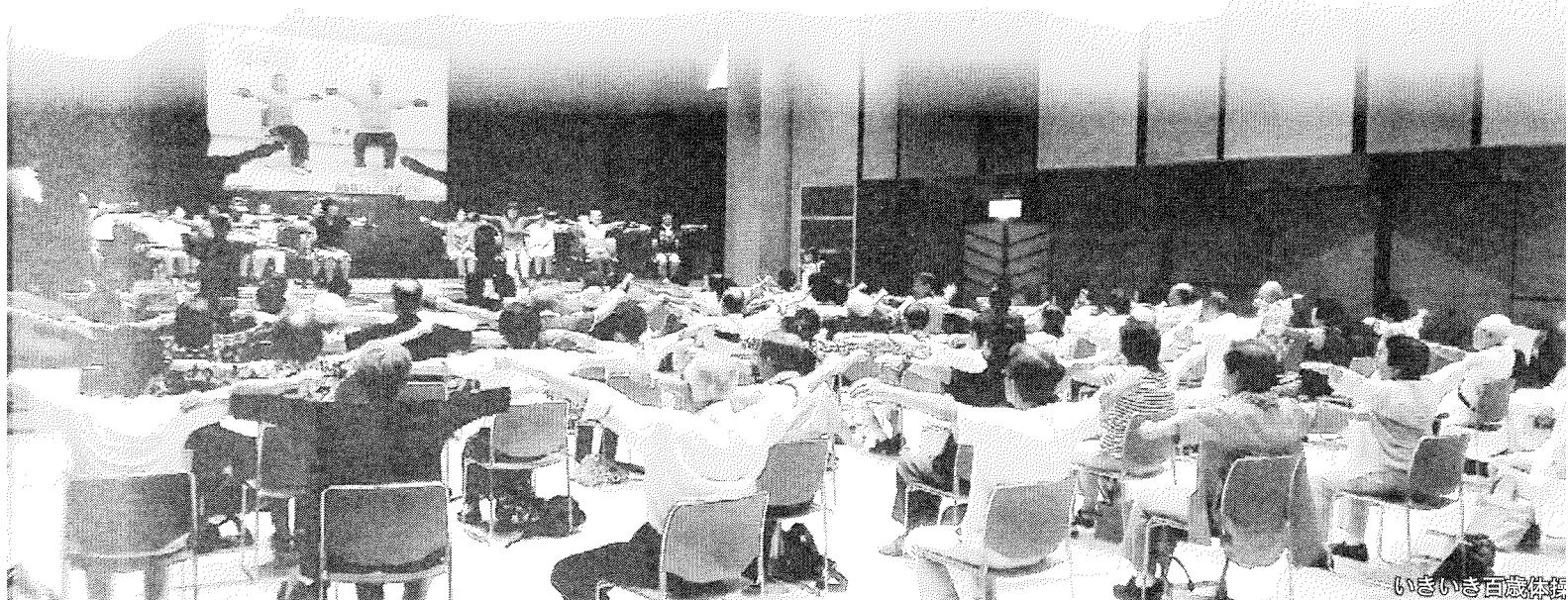
8月の中旬、ご利用者に夏を感じ楽しんでいただこうと夏祭りを開催いたしました。ご利用者の皆さんに作っていただいた、ちょうちんを飾り、金魚すくい・玉釣り・紐引き・ベビーカステラなどの屋台、ボランティアの栄会さんによる盆踊りを楽しんでいただきました。昼食では流しそうめんを召し上がっていただきました。昨年までは、フロアの真ん中に竹を設置して皆さんに移動していただきしていましたが、移動しづらいという声がありましたので今回から各テーブルに竹を設置し、手を伸ばせば流れてくるソーメンを取れるようにと変更しました。ご利用者の皆さんも取りやすいと楽しんでくださいました。

反省点もありましたが皆さん喜んで下さっていました。来年度は反省点を活かし、もっと楽しんでいただけるようにしたいと思います。

## 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

日常生活支援総合事業の取り組みについて  
主任・主任介護支援専門員  
坂本ひとみ

介護保険制度の変更に伴う日常生活支援総合事業が平成29年4月より全国的に開始となりました。生駒市では先駆けて平成27年10月より高齢者が自ら介護予防に取り組み、その人らしい自立した生活を続けていけるよう支援し、新たな担い手の確保や、多様な生活支援のある地域作りに取り組んでいます。高齢者を地域全体で支えるサービスの選択肢が広がって、教室参加者からも「元気になって、いきいき百歳体操にも歩いて参加出来るようになった」との喜びの声も聞こえています。DVDを見ながら週1回仲間と集い、おもりを使って体力・筋力をつけるいきいき百歳体操が、現在市内42箇所の集会所や自治会館、個人宅など住民主体で開催されているところです。今後も地域住民の皆様に、多様な社会資源を活用しながら様々なサービスが提供できるよう取り組んでいきます。



いきいき百歳体操

## 梅寿荘デイセンター

## 再スタート

生活相談員

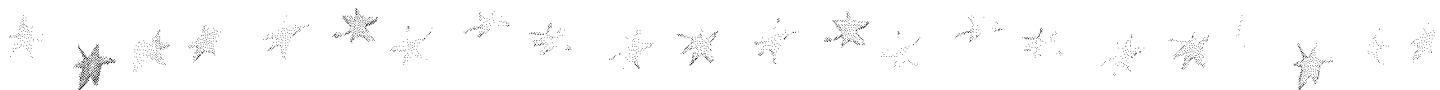
鶴川 知子

長い間、変動の無かった職員状況が今年2月頃より、異動も含めて様々な理由で5名もの職員が居なくなるという異常な事態となりました。

私は3年前に梅寿荘デイセンターを定年退職しデイセンター憩の家でパートとして勤務しておりましたが、この度、職員として復職することになりました。

2名の若い職員とパート職員だけで日々の現場の業務が成されていました。本当に皆は必死でテキパキと動いていましたが当然そこには余裕などありませんでした。男性職員の手が必要な時にも女性職員だけで行うことで腰を痛めたり、腱鞘炎を起こしたりと大変な状態でした。ご利用者に迷惑をかけまいと一生懸命でした。

微力ながら私が行おうとすると、この私に気を使ってくれました。今は職員も増えて少しずつ平常を取り戻しつつあります。行事等も計画通りに行えませんでしたが、今から心機一転、梅寿荘デイセンターを支えてくれた皆と共に努力していきたいと思います。



## あくなみ苑

## 未来への投資

会計主任

清島 理知

平成29年度、上半期が終わろうとしています。あくなみ苑は平成8年12月開苑以来、21年という時間の流れを受け、経年劣化による設備機器等の故障し、その関係で修理や、機器の購入が必要になってきました。故障する

ことにより、ご利用者の生活に支障が無いように早急に修理や購入し対応しています。また介護職員が不足していますが、ケアの質を維持するために、派遣職員や、介護職員紹介を利用しています。そして介護職員とご利用者への負担の軽減の為に、介護ロボットの購入も検討しております。それらは、積み重なると大きな支出となります。この投資が先の安定した経営につながり、ご利用者のより良い生活に繋がっていくと考えております。



## 居宅介護支援センター 延寿

## 居宅介護支援センター延寿の取り組み

やすらぎの杜 延寿・居宅介護支援センター 延寿

中田エミ子

特定事業所可算制度は「中重度者や支援困難ケースへの積極的な対応」を行うほか「専門性の高い人材」を確保し「質の高いケアマネジメント」を実施している事業所を評価し「地域全体のケアマネジメントの質の向上」に資することを目的としています。

居宅介護支援センター延寿は特定事業所可算（II）算定を届け出ています。算定要件は9項目あり、事業所として継続的に取り組む週1回のケース会議と介護支援専門員の内外研修実施・支援困難事例対応可能な体制整備に重点を置いています。今年度より実習生受入事業所となり人材育成への協力体制の整備をおこないまし

た。そこでケアマネジメントサイクルについて実践事例を通じ、同行訪問・会議への参加・書類作成・相談援助など一連業務の実習となるので指導者として事前準備に時間を要する事は当然ですが、何より実習生の学ぶ場を作り育ててくださったのが協力をお願いしていたご利用者と家族様の協力であった。インテーク・アセスメント・介護サービス計画書作成・担当者会議・モニタリングといったそれぞれの場面で実習ができるよう事前準備をされていた。自分たちのできる協力・役割が嬉しいとまで言ってくださいました。利用者が望むケアマネージャーは“連絡を入れた時、すぐ行動すること”（訪問するなど）「頼りにしている・・・来てくれただけで安心できる」と言葉を添えてくださいました。これからケアマネージャーを目指す実習生の心に響く一言に感謝です。事業所の質の向上にはご利用者から学ぶことがたくさんあります。今後も、より良いケアマネジメントが実施できるよう努めてまいりたいと思っています。

## 愛染寮

### 子育ての力を發揮するチーム作り維新 ～まず職員力！

主任保育士

中尾 智子

今年度の愛染寮職員としてのテーマは、「子育ての力を發揮するための組織・チーム作り維新～まず職員力！」です。昨年は、70周年イヤー一色で職員も子どもも一大イベントに向かって一丸となっていました。今年は、その一丸となった「楽しき我が家愛染寮」が続くように地に足をしっかりとつけて、大人と子どもと一緒に、生活の中で出てくる様々な感情をコントロールできる手法「セカンドステップ」を取り入れて勉強しています。生活が今まで以上に充実できるように大人も子ども努力している所です。9月には、第三者評価も受けことになっていますので、自分たちの足りないところは何か得意な所は何かを振り返り、子育てのプロ集団になれるよう勉強し、前向きに下半期を充実させていきたいと思います。

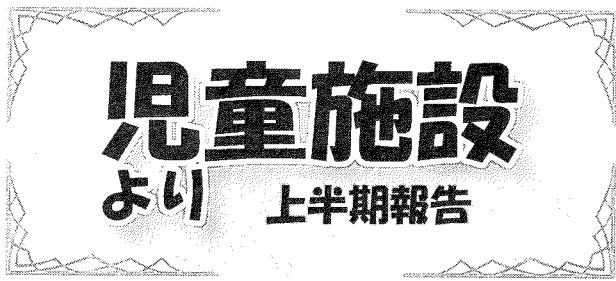
## 奈良県発達障害支援センターでいあー

### 上半期の報告：講演会・会議など

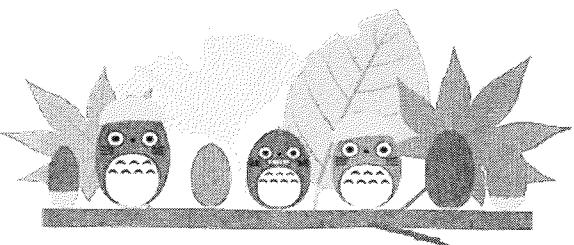
主任

大西 和幸

でいあーの上半期ですが、4月に発達障害啓発週間の取り組みとして、「おとなの発達障害セミナー」を開催しました。県内の実践報告のほか、発達障害の方の交流会も行いました。7月には「トレーニングセミナー」を実施し、講義だけではなく演習の取り組みもあり現場の方々に参加して頂きました。8月は講演会・シンポジウムとして「ライフステージをつなげる発達支援」をテーマに金泰子先生・藤井茂樹先生のお話をお聞きました。講演会以外では、関係機関とのネットワーク作りを目的とした「連絡協議会」を6月に開催し、「子ども・若者支援のあり方」をテーマに、若年者支援の現状などの話題提供をもとに関係機関の方々と意見・情報交換を行いました。参加した会議は、「発達障害者支援センター全国連絡協議会（今年度は福岡県開催）」「地域自立支援協議会（奈良市や生駒市）」「子ども若者支援ネットワーク会議（天理市や生駒市）」「奈良県発達障害者支援体制整備検討委員会」「障害者雇用連絡会議（奈良）」になります。



セカンドステップの取り組み



シンポジウム

# 児童発達支援 いっぽ

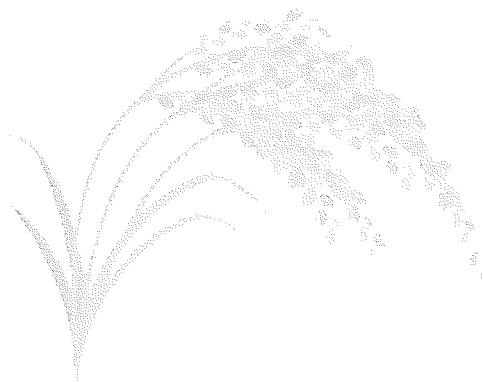
## 6年目のスタート

保育士

岡田 美和

平成29年3月でいっぽは5年間の区切りの年を終えました。開所当初から通ってくれていた小さかった子どもも、地域の幼稚園を立派に卒園し、小学校へと入学されました。その大きく成長した子どもの姿を見ると、私たちも負けないように成長していかなければという思いで、29年度をスタートすることが出来ました。

今年度は、今までの療育クラスをより充実させる為に、療育時間の延長や親子療育を開始しました。更に、職員の専門性を高める為の取り組みや高まる親支援のニーズに答えるために準備も始めています。開所時と何も変わらない部分と、発展していくかいない部分とをしっかり見極めて、子ども達の成長の為、保護者の思いに応えるために今年度も精進していきたいと思っています。



# 極楽坊保育園

## 上半期極楽坊農園

主任

老田 紀子

春にはスナップエンドウ・玉ねぎ。夏にはトマト・キュウリ・枝豆。そろそろ収穫時期がきているジャガイモ。狭い畑ですが、色々な野菜を育てています。そして昨年からコンテナ米栽培にもトライしています。今年は暑かったせいか、酸素不足から一時枯れかけるという危機もありましたが、コンテナに穴をあけて箸栓をつけるという方法で水を替え、なんとか危機を乗り越えました。そして9月、ようやく穂が出て花が咲き始めました。さあ次は案山子の出番です！沢山の収穫を楽しみに、子ども達と一緒に育てています。

農作物の栽培を通して自然と触れ合い、栽培の難しさや収穫の喜びを体験する事で、自然への感謝や食への理解を少しでも深めていけるよう、これからも計画的に取り組んでいきたいと思います。



# 平城児童センター

## センター合同夏祭り

センター長  
祖徳おさむ

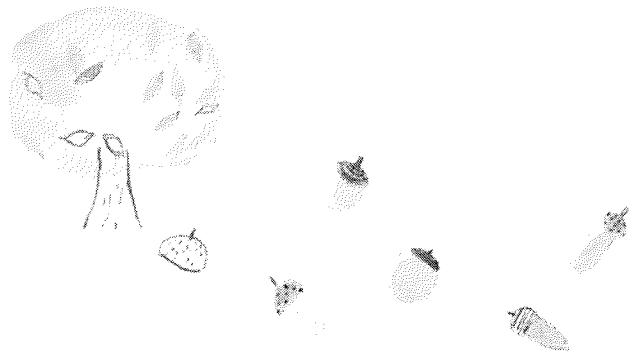
「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の合同夏祭りを8月4日に行いました。

センターの活動や行事に子どもたちが自由に意見を言えるようにすることが大切であることから、今回初めて子どもたちにプログラムを考えてもらいました。

子どもたちは二、三回話し合い、年長児童を中心となり「スーパーボールすくい」「あてもの」「ヨーヨーつり」「福引き」「わなげ」などの屋台の出し物、役割分担や必要なことをまとめてくれましたので、その内容に沿って行いました。

当団にはボランティアの方が懐かしいポン菓子の実演をして下さり、大爆発の瞬間を体験することができました。

子どもたちはそれぞれ幼児のサークルの保護者の方と一緒にお店番をしながら夏祭りを楽しんでくれました。これからも子どもたちの意見を取り入れた行事や活動を進めていきたいと思います。



## こども支援センターあすなろ

### 音楽療法の力

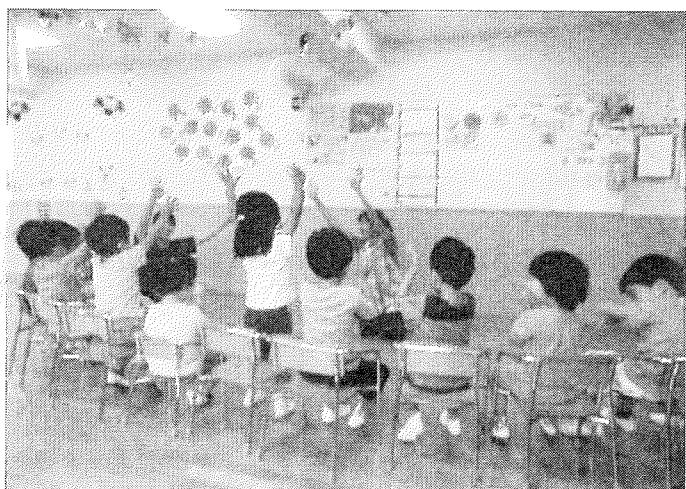
主任保育士  
佐伯 佐知

4月、あすなろは全職員49名でスタートしました。新たに仲間入りした職員も多く、子どもも大人も落ち着かない日々でした。

大人数になると情報を共有するのも連携を取るのもなかなか難しいと実感しています。

そこで初心に帰り、全員で加賀谷式音楽療法の研修を6、7月に受けました。音楽に合わせた支援技術のポイントを勉強するのですが、全員で音楽を聴きながら体を動かしていると徐々に一体感が生まれてきて、職員も笑顔になり癒しの表情に…、まさに音楽療法の力を感じた気持ちの良い研修でした。

こんなキラキラした笑顔や力をこども達と一緒に感じられるような療育を目指し、日々職員みんなで切磋琢磨していきたいです。



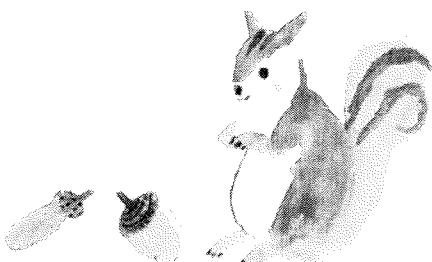
音楽療法を取り入れて遊ぶこども達

## いこま乳児保育園

### 子どもの絵に向き合って

主任保育士  
喜多由希子

今年度は2歳児12人のクラスに午前中のみ補助に入っています。6月から毎日子どもに関わる中で、久しぶりに心地よい感覚を味わっています。子どもの絵画について学ぶ機会があったので、毎日食後に1対1で描く時間を作りました。大変な時間帯ですが、意外と食後の満腹感で落ち着いて描くことができ、淡々となくなり描きをする姿から、「この前、ゴロゴロ～って鳴っていたなあ」と話しながら点描や、グルグル描きをする姿に変わりつつあります。自分の気持ちを言葉にするにはまだ拙い年齢の子ども達ですが、絵を通して子どもの心中と少しでも丁寧に向き合い、絵を描く楽しさをたくさんのお子様も達や職員に伝えていきたいと考えています。



## あすかの保育園

### 笑顔で過ごすために

主任保育士  
小林 美香

子どもたちは毎日元気いっぱい笑顔で過ごしています。今年度は子どもたちの置かれている環境を整えて、更に笑顔で過ごせるように検討しています。

まず6月に2、3歳児の子どもたちが楽しく遊べるような空間作りを考えながら、中庭の改修工事を行いました。今は夏野菜を植えたり、プールを楽しんだりしています。また来年度の保育指針の改訂に伴い、子どもたちが主体的に（自分が主人公になれる保育）過ごせるように、また自分は愛されているという実感を持ち、その上で自己肯定感が育つように、保育士間で同じ目線に立って保育ができるように考えています。2学期は園内研の中で、更に共通理解をして、子どもたちと笑顔で過ごしていきたいと思います。



ゆうなのママやねん

## 仔鹿園

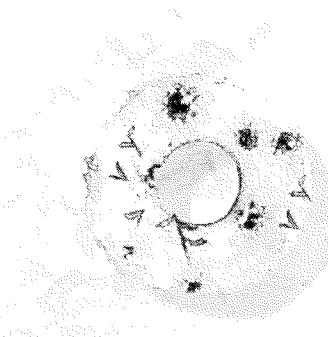
### 居心地はいかが？

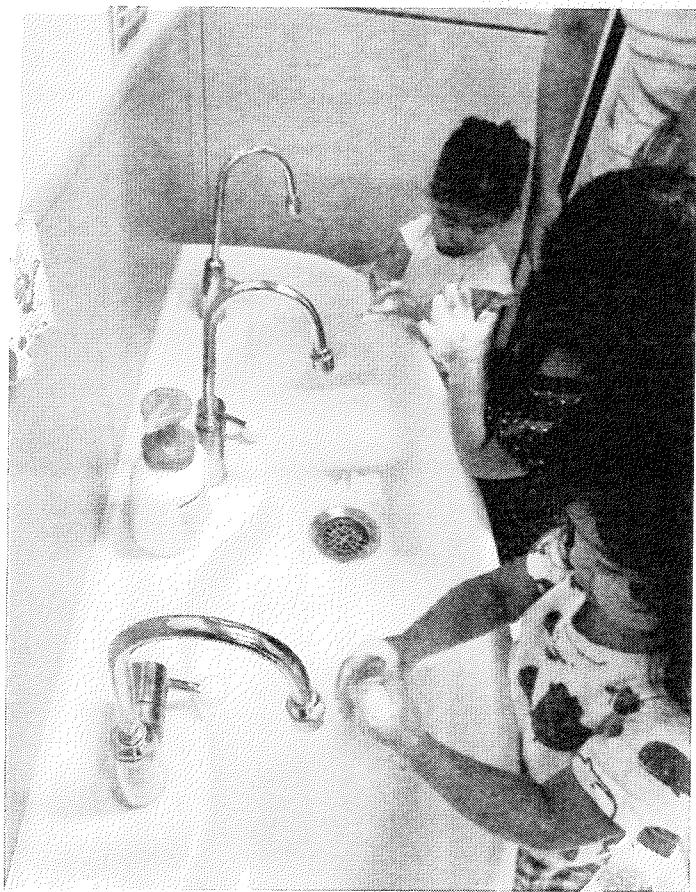
主任保育士  
稲田 桂子

坂道をピンクに染める桜、紅白のサツキと新緑、雨上がりに煌めく紫陽花、お地蔵様に提灯が飾られ浴衣で手を合わせる季節を経て、4月にちょっと緊張した表情だった子ども達も先生も「いい感じ」にリラックスしてきました。プールからは暑さに拍車がかかるミヘンミヘンの蝉の声に負けない子どもたちの元気な声が響き、太陽よりも輝くキラキラの笑顔が「半年の成長」を感じさせてくれます。

仔鹿園には野ウサギ、イタチ、サル、イノシシ、さらに鹿の親子も敷地内で見かけるようになりました。子どもも大人も動物も居心地がいいのかしら？

トンボが飛び交う秋を迎え、更にどんなステキな成長の実が見られるか楽しみでなりません。





## いこま乳児院

### 感染症ゼロを目指して

主任看護師

関口 直見

昨年度より取り組んでいる、『あわあわ手洗い』が定着し、手洗い歌を歌うと、七か月の児も手をこすり合わせる仕草をするようになりました。まだまだ介助が必要な部分もありますが、手を洗うことを嫌がる児はいません。

今年度は、発熱児が出ても長引くことなく、拡大することもなく、みんな元気に過ごせています。

先日行った、創立50周年にして初めての「子どもも大人も全員でのお泊り」に一人も欠けることなく参加することが出来、仔鹿園で楽しい時間を過ごすことが出来ました。

元気でいることは、たくさん遊び、体力をつける事にも繋がっていきます。見えない敵に負けることなく、元気で楽しい一年になるよう頑張っていきたいと思っています。

## いこまこども園

### こども園に移行して

主任保育教諭

森川 清子

こども園に移行して半年が経ちました。これまで保育園部に通っていた子ども達が保護者の離職や出産等の理由から幼稚園部に認定変更される家庭もあり、15名の定員が現在16名となっています。また、預かり保育の利用も多くあり、保護者の方の状況に応じた対応を行っています。

名称が変更となり、いろいろな場面で職員もこども達も「保育園」という言葉がでて苦笑いをすることが多々ありました。それもようやく慣れ始めたころ、幼稚園部の子ども達は、ベランダや園庭において栽培、収穫体験を行った1学期が終わり、初めての夏休み。そして、長いお休みが終わり2学期を迎えるました。久しぶりに会った友だちに、笑顔で「おはよう」と言葉を交わし、これまで通り一緒に遊ぶ姿から子ども達の繋がりの深さを感じました。

これから運動会、作品展、春をよぶつどいなど様々な行事を通して保育教諭や友だちと豊かな人間関係を築いていけるよう、教育・保育の計画をしていきたいと思います。



コンテストのせよりたかい賞を頂きました。



今年も毎日たくさん野菜が収穫できました。

# 愛染寮 平成29年度 海への里帰り報告

# 今年の「海への里帰り」は 結果オーライ！



内浦海水浴場、わらじが干いて楽しむ様子！



南知多ビーチランド！

最終日はお世話になつた清水荘を後にしてナガシマスパーランドに向かいました。太陽が照り付け大変暑い中でしたがジェットコースター等絶叫系の乗り物などを満喫し生駒へと帰りました。

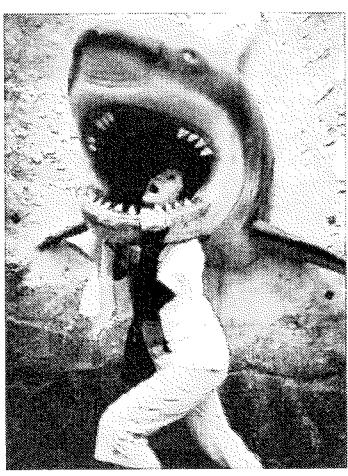
天候に左右された部分もありますが無事に帰つて来ることができ楽しい

なんと台風が後ろから迫つてくる曇り空の中ひめゆりバスで生駒を出発しました。どうせ今日は移動だけだし、計算上は夜中のうちに通過して朝は台風一過の晴れという段取りでした。時間がたてばたつほど風雨は強く前も見えにくくなる中なんとか3日間お世話になる「憩いの宿 清水荘」に到着しました。夕食は新鮮な魚の刺身

や名物の大ハマグリなど海の幸が満載でお腹は満足でした。清水荘の大将に天候について聞くと「この分だと明日は海に入れるよ、波が心配だが」という地元の方の言葉を信じ、この日は民宿でゆっくりと過ごしました。

2日目、大将の言葉通り台風は過ぎ去り天気も回復していました。しかし波が高く午前中は民宿から車で20分のところにあるビーチランドに行きました。オットセイやイルカショーを楽びしそうになりました。中には最前列に座つてそのあと民宿に戻りようやく海水浴です。若干波は高いものの波を利用して子どもも大人も楽しく遊びました。夕食はバーベキューをして夜に海岸で花火をしました。

昨年、「愛染寮創立70周年記念の海への里帰り」として宮古島に3泊4日で行かせていただけて早1年。今年は愛知県知多半島の南にある内海海水浴場に行きました。8月7日から9日まで小学生12名、中学生4名、高校生3名、ボランティア1名、職員5名の計25名での参加となりました。



サメは、熟女がお好み？



里帰り支出報告（平成29年6月1日～9月15日）

収入	ひめゆり基金からの助成金	500,000円
	愛染寮自己負担分	175,978円
	合計	675,978円
支 出	海への里帰り（愛染寮）	675,978円

\*今回ひめゆり基金に1,850,170円の温かいご支援を賜りました。

愛染寮機関誌「すず」にてお名前を記載させて頂いております。

◆日 時	平成29年8月7日（月）～ 8月9日（水）
◆行き先	愛知県知多半島方面
◆宿泊	清水荘
◆参加者	
小学生	12名
中学生	4名
高校生	3名
職員	5名
ボランティア	1名
	計31名

思い出を作ることができたと思います。最後になりましたがご寄付頂いたたくさんの方、お世話になつた関係者の方々にあらためて御礼申し上げます。

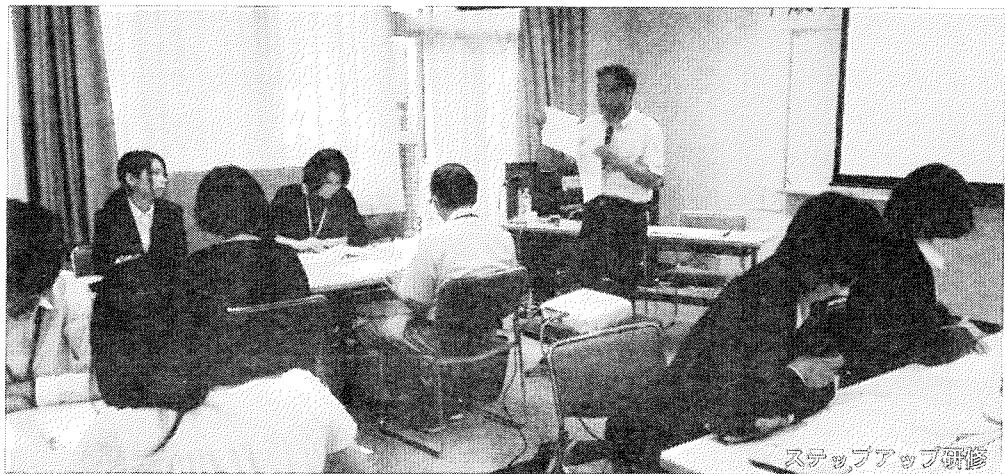
# ステップアップ研修

## リーダー研修

法人内の職務階級に応じて開催している研修のうち、毎年開催の「ステップアップ研修」、隔年開催の「リーダー研修」を開催しています。その様子をお知らせします。

### ◆ステップアップ研修（7月5日）

中級クラスの職員の更なるレベルアップを目指して、対人援助に必要なアセスメントの基礎をテーマに、奈良県発達障害支援センターでいあの森山貴司センター長が講師となつて1日研修を行いました。21名の職員が参加し、発達障害とその支援についての講義を受けた後、事例を用いてグループで簡単なアセスメントを行い支援計画を立てるワークを行いました。支援を必要とする方の背景や課題を知り、我々がどのような援助を行っていくかという基本的な考え方を高齢・児童・障害のどの分野にも共通するものです。今回も様々な分野の職員が参加しましたが、グループ内で互いに情報交換をしながら理解を深めていたようです。



ステップアップ研修

### ◆リーダー研修（9月7日～11月28日）

リーダーを目指す職員、すでにリーダーとして働く職員を対象として、リーダーに求められる役割やチームワークについて学んでいます。第1回

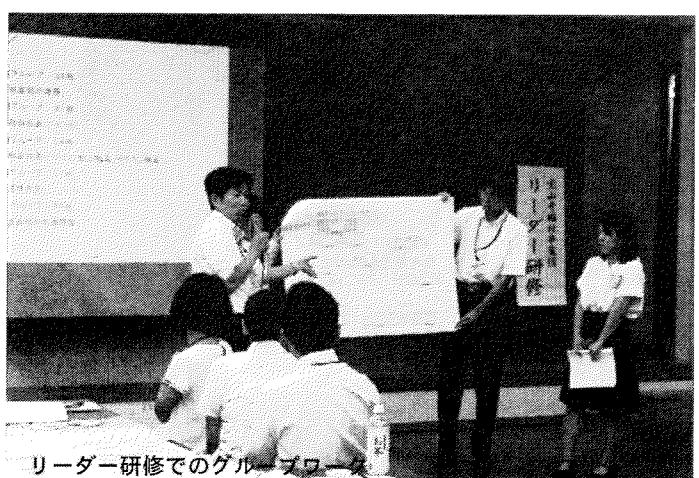
は、9月7日に真言律宗總本山である西大寺を会場として実施しました。まずは本堂を参拝し、理事長の講話をお聞きしました。西大寺の歴史や真言律宗の宗祖である觀尊上人、その弟子の忍性上人の救済事業についてのお話を聞き、「興法利生」の実践に尽くした姿は、現代の我が法人の理念として通じていることを感じました。その後、光明殿にて西大寺の僧侶の方々による大茶盛の施しを受けました。頭をすっぽり覆うほど大きなお茶碗で、隣の人に助けてもらいながらお茶を頂きました。

メインテーマである「チーム・組織論」の研修は興正殿で半日かけて行いました。講師はディセンター・ケアハウスマスあくなみ苑の田中将史苑長で、チームワークとは何か、そしてリーダーシップとは?ということを中心にお講義をしていただきました。研修後半はグループワークを行い、チームや組織の課題解決法をグループのメンバーで出し合った具体的な事例を基にしながら学びました。この研修は、あと2回にわたって開催され、苦情解決の基礎・人事考課制度についてのテーマについて法人内講師が研修を行う予定になっています。

人事・研修部長辻村泰聰



大茶盛体験



リーダー研修でのグループワーク

# 採用取組と現状 人材不足の時代に――

表題の通りであるが、嘆いてばかりでも始まらない、わが法人もあの手この手の策を、就職サイトマイナビさんの助言も頂戴しながら考え、取り組んでみた。

まずは、ビジュアルにも訴え、パンフレットを手に取つていただくところから――こちらのニーズや思いを細かく伝え、プロの手によるパンフレットを作成した。リクルーターを中心とした若手職員に登場してもらい、仕事風景や思いをふんだんに盛り込んだ。且つ、すつきりこちらの想いが伝わるようにならね。

自画自賛ではないが、クオリティーの高いものになつたのだとは思う。

そしてそのパンフと若手のパワーを武器に、外部の就職説明会への参加の仕方も大いに工夫した。今までのやり方を慣習的にやつてるだけではダメ！大阪で開催された説明会を見学した職員の感想から、とにかくブースに足を運んでいたぐために目立つことも必要とブースを丸ごとデコレーションした。従来の手作りだけでなく、バナーや壁面にもプロの手を借りた。ここは、まずは手ごたえありだ。特に高齢者部門は去年とは比較にならないくらい席についていただけた。児童も中

だるみであつた内部説明会へのエンターテイメントもここから巻き返しを見せた。

そして特筆すべきは児童、高齢者部門とも採用試験の方法を大きく変更したということだ。高齢者では筆記試験、実技試験を廃止。面接を段階的に

行う。児童は従来の筆記と作文、実技の方式を残しつつも、新しく実習を1日していただくことによって従来の試験の要素をそこに盛り込むという方式を取つた。選択権は受験者にあり、実習型などの施設か希望を聞いていたる。9月15日現在試験型の内定が3名、実習型では4名となつていて、まづまずの成果を上げつつあるといえるのではないか。

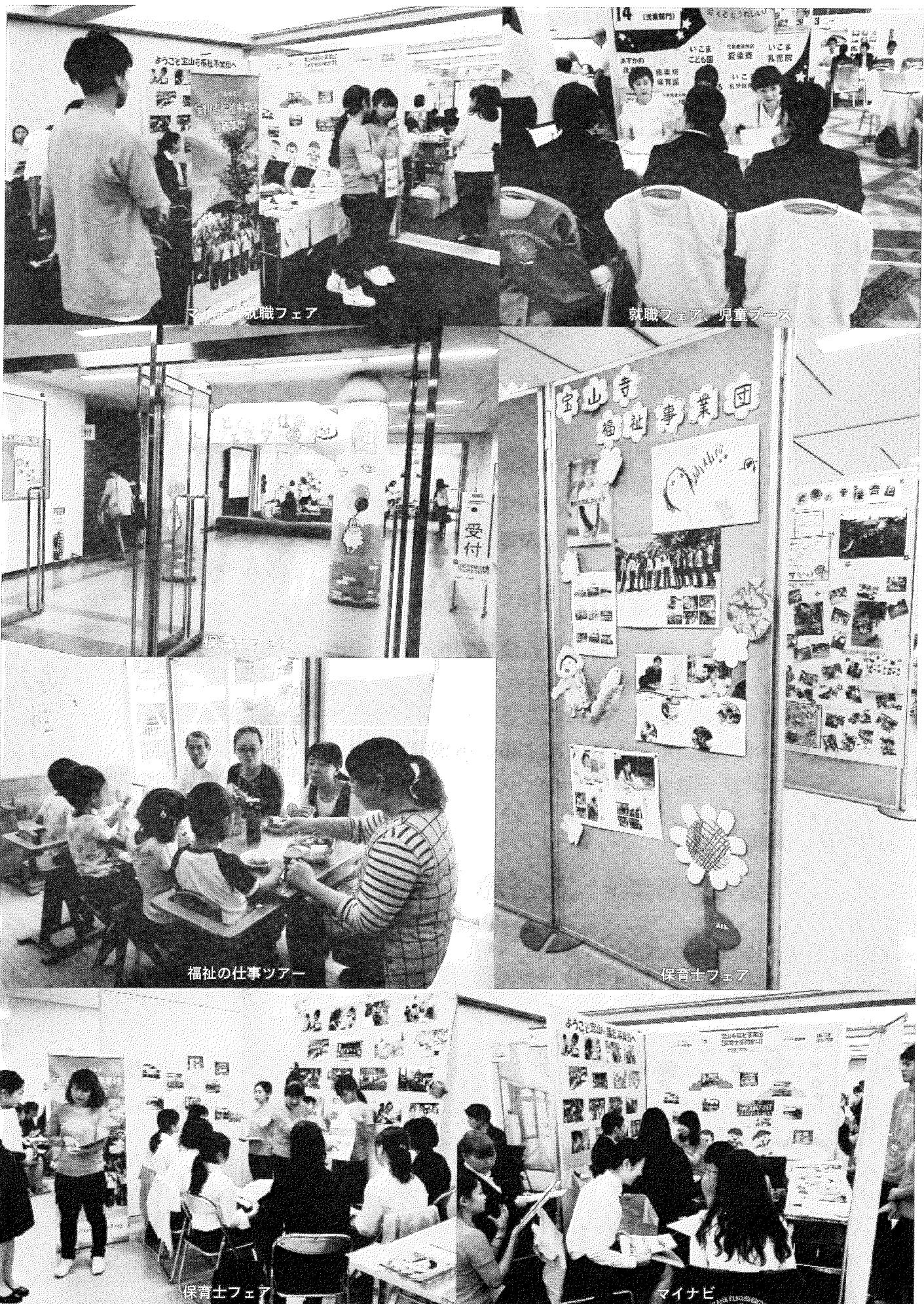
しかし、やはり応募の人数としては分散傾向にあり、一度にまとめて内定を出せるということはなくなつてゐる。高齢者では、現実人材不足の穴埋めは採用試験だけではできていません。8月後半には県の福祉人材センター主催で「福祉の職場見学ツアーアー」と銘打つて約20名ほどの方に見学していただき、乳児保育園の子ども達と触れ合つたり愛染寮の子ども達とともに今までの内定者対象に、10月2日内定式が行われた。

以上、様々な改革を試みての今年度の形がベストなのかどうか、しばらく



内定式

内定式



## 第21回 宝山寺福祉事業団 研究発表会のお知らせ

### 私たちの介護 ～今とこれから～

**日時** 平成30年1月28日(日)

開場 12時15分 開会 12時45分

**場所** 生駒市南コミュニティセンター せせらぎ

生駒市小瀬町18番(せせらぎホール)

近鉄生駒線「南生駒駅」下車 北西へ徒歩5分

#### 第1部 職員による発表

- ①『自立と活動につなげる環境づくり』……………梅寿荘  
～共用空間の再構築～
- ②『安楽な姿勢で あなたらしく』……………延寿
- ③『介護ロボット導入による介護現場の未来』……あくなみ苑  
ポスターセッション……………高齢者・児童部門各施設

#### 第2部 講演

健康運動指導士 大谷恵子 先生

【お問い合わせ先】

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団事務局 URL:<http://hozanji-wel.org/>  
TEL 0743-74-1172 FAX 0743-74-1911 〒630-0257 生駒市元町2丁目14番8号

#### 編集後記

秋の訪れを告げる花彼岸花。

法人の入り口で見つけました。花が咲くときには、葉がなくなり茎だけでスッと咲いている姿が凜として炎のような花びらも力強く、なんだか優しさもあって美しい花ですね。昔から触っては「ダメ」といわれているだけでしたが、調べてみると色々言い伝えがあるようです。また、別名もたくさんあり面白い花です。

(家治)